

次のとおり令和7年度市民活動支援センター第3回運営委員会の報告を致します。

会議名	令和7年度 第3回 調布市市民活動支援センター運営委員会								
開催日時	令和7年7月13日(日) 10時~12時								
会場	市民活動支援センター 活動スペースはばたき								
出席者	委員名	欠	安藤雄太	○	村上むつ子	○	平澤和哉	○	増田健治
		○	水田征吾	○	大槻昌美	○	石井洋子	○	児山宣孝
		○	浜本雅樹	○	石正房江	欠	毛利勝	○	ニファ・ジヤマンナ
		○	小松明日香	○	松永佳子	欠	吉田真也	○	佐藤晋太郎
		○	田島誠						
	事務局	○	北島正也	○	嵐祐子				
司会	事務局/運営委員長			記録		事務局			

社会福祉法人社会福祉協議会市民活動支援センター運営要綱（以下、要綱）第10条第10項「運営委員会は委員の過半数の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数で決する。」の規定に基づき、14人の出席により運営委員会は成立していることを確認した。

1 1分間近況報告（各委員） 10:00~10:30 (30M)

2 【報告事項】 10:30~10:40 (10M)

（委員長）議題に沿って進めていきたいと思ひます。
報告事項からお願いします。

（事務局）資料2のえんがわファンド2025、新設団体及び既存団体助成票を見て頂ければと思ひます。6月7日（土）のえんがわファンドプレゼンテーションを行い、13時から18時半まで5時間半に及ぶ発表となりました。今年度は22の団体にご参加いただきました。6月19日（木）に事後の選考委員会を開催し採択を行い、結果を発表させて頂きました。機械故障に伴い法人サーバーに接続できない状況が発生し、予定より1週間遅れ6月26日（木）に当センターホームページ、メール、郵送にて22の団体へ選考結果をお伝えしています。今年度の交付額は933,963円でした。特記として、えんがわファンド事業を開始以来はじめて、申請額よりも多く助成決定した団体があります。これは、運営委員会で皆さまからご意見をいただいた、当センターとして団体の活動をより良く伸ばしていくために、助言を含めてもうひと押しする視点での助成を考慮し選考を行いました。採択した団体14団体のうち、選考委員会において特に共感の高かった5団体に対し、増額助成を行いました。また、22団体のうち辞退した1団体を除く、21団体へは採択・不採択の理由を添えてそれぞれの団体へお伝えしています。一部の団体からは不採択と

なった団体もウェブ上で公開を行うことに対し、社会的に意義がないと誤解を招くのではないかという旨の問いがありました。

本助成事業の選考基準に基づき不採択とした団体は、いずれの団体も社会的に意義がある活動を行っていることを各団体にお伝えしています。市民に向けてどのような形で発信するか、選考委員会と相談を行っています。

続きまして、メールボックスとロッカーの更新状況についてです。

第2回運営委員会におきまして、利用におけるルールや発送方法を確認し、約110団体に対して郵送やウェブフォームを用い、今年度の更新意向を確認しました。

メールボックスは41団体、ロッカーは93団体が利用いただいておりますが、現在までに合計で85団体より返信を頂戴しています。尚、約半数はメールボックス・ロッカーの両方を利用登録いただいているため、この場合は1枚の用紙にて返信をいただいています。

また、同時に実施したアンケートの回答状況は、肯定的な意見を多くいただいております。一部を紹介すると「遠方から来ているのでロッカーがあつて助かる」「構成メンバーが物の出し入れに利用できて助かる」といった意見や、「いつもありがとうございます」といったメッセージがありました。これらのメッセージをとりまとめ、センター内に掲示を行い、利用団体の声とセンター長からのリアクションを添えてお返ししています。一方、改善を求める内容は3件ありました。うち1件は、メールボックスとロッカーの両方を利用する団体からのご意見で、「ロッカーとメールボックスの番号」が異なり覚えにくいのでロッカーとメールボックスの番号を同じ番号でお願いしたいが、希望する番号は既に別の団体が使用しているため、仲介を行って欲しいという内容でした。こちらはセンタースタッフが仲介を行い、両者合意の上、終結に至っております。

その他として、「Wi-Fi 利用時間延長」のご要望や「あくろす指定管理が管理する諸室の鍵の貸出しを10分より前にして欲しい」というご要望でした。

こちらは、調布市男女共同参画推進センター、調布市産業労働支援センター、あくろす指定管理事業者、当センターが定期的に行うあくろす定例会議にて報告・共有を行う予定です。

続いて、調布サマーボランティア2025の報告です。

申込期間中（6月30日から7月12日）に、約80名の市民から108件の参加申し込みがありました。今年度の受入れ施設・活動団体は40です。今後、7月18日から、第2次募集を予定しています。

今年度は、申し込み時の簡便性を図ることを目的にホームページ維持管理事業者と協働でWEBと電話による申込方法を予定していましたが、WEB申込が適切に機能せず、急遽電話対応のみに切り替える事態が発生しました。その後の申込は特に支障なく第1期の募集を完了しました。

（委員長）ありがとうございます。

報告事項について、質問・意見がありますか。

(委員) 過去に本助成事業を利用した経験と選考委員を担った経験からすると、今年度は助成決定額が0円だった団体が7件あり、多いように感じました。簡単な理由を説明していただけると嬉しいです。

(事務局) 昨年度は15団体の申請に対し、14団体が採択、1団体が不採択でした。今年度は22団体と申請数が多かったことも要因の1つかと思われます。加えて、助成金の使途が団体の構成員に支払われるという申請団体が複数あり、選考委員会での検討の結果、不採択としました。その他、申請書類の提出、追加書類の提出が期限内に行われなかった申請団体も不採択としました。結果として、今年度は14団体が採択、7団体が不採択、1団体が辞退したため、採択した団体数、金額は昨年度と同等となりました。

(委員) 理解しました。

(委員) 申請額に対して、助成額が上回るという事例はあまり聞いたことがない。各種団体が実施したい内容に応じた金額を申請し、プレゼンを行ったと理解した。さらに、えんがわファンド事業として、金額を増額して、挑戦することを後押ししていると思います。

- (1) 金額が増額した分は、申請書通りの活動を実施するのみでなく拡充した活動を行って欲しいという内容と捉えたが、この点を団体は理解しているのか。
- (2) また、この活動が充実したという価値判断を行う方法を事務局側が捉える方法はあるのか。

(事務局) 例として、17番のスピードの会は、男性介護者の研修講師を呼ぶ費用や会場費が申請されました。増額分に関しては、当日の講座を受けられなかった方へ紹介ができるよう、活動記録等の作成を依頼しました。増額助成を行った団体は全14団体のうち5団体ありました。各団体と当センターの今後の関わりの中で具体的な使途と一緒に検討していくことになった団体もあります。助成金の使途については、規約に基づき、運営委員会の中でも相談をさせていただきたいと考えています。評価方法に関しては、えんがわファンド助成団体交流会、令和8年2月1日から2月28日にかけて、各団体に活動報告書の作成、提出をいただきます。この報告書の中で、助成金の使途を報告し、充実度を測りたいです。

中長期運営方針の中間評価

(委員長) では、本日の協議事項に入ります。

中長期運営方針の評価について資料説明をお願いします。

(事務局) 市民活動支援センター中長期方針（2023-2028）に沿って、2023、2024 に実施した事業と紐づけを行いました。

これらの活動に対して、充実度と不足点を主観的に整理した表が配付資料の3枚です。表の説明は2、3行に整理しています。

(委員長) 資料は過年度2か年分の事業の内容が記載されているため、膨大な情報量になります。1つひとつを評価していくことは時間的に厳しいため、前回委員会内で共有・協議したことを含め、再確認します。

市民活動支援センターの事業は5本の柱に基づいています。各柱に沿った活動内容が書かれていますが、前回の運営委員会で話題にあがった3つ目の柱、えんがわファンドに関連して、サポーター会員の減少が報告されました。

今年度の市民活動支援センターの活動方針として、市民活動助成事業えんがわファンドに力を入れていきたいと思います。

取組の1つとして、本年度は2月末のえんがわフェスタをえんがわファンドに繋げる形を検討したいと思います。少し内容について事務局から補足していただけますか。

(事務局) (1)地域参加の推進について

体験イベントやボランティア募集など、様々な市民が活動する機会を年間通して増やすことを目指す内容です。こちらは特に充実した柱と捉えています。えんがわファンド、えんがわフェスタ、調布まち活フェスタ、ちょうふチャリティーウォークといった規模が大きいイベントを始め、えんがわ文庫やサマーボランティア事業などが該当していると考えています。

課題はボランティアや活動団体を対象とした調査、支援の可視化、職員の研修については、不足する部分があると感じています。

(3) パートナーシップの強化について

ボランティア、NPO、学校、地域、行政、企業など多分野の団体をセンターが繋いで出会う機会を創出、多様なパートナーシップを構築することを目指す内容です。

多様な主体や多分野の団体と出会う機会の創出はできている一方で、点と点が繋がりになって線になる動きはまだできていないと感じています。

市内7ヶ所に設置している各コーナーにおいて、より身近な地域課題の発見と解決に向けたボランティア市民活動の推進を検討し、地区協議会などの諸団体とのパートナーシップを構築していく。

各コーナーの地域性や市民との関係性等を活かしながら、目標は概ね達成して

います。とりわけ調布社協地域福祉推進課の地域福祉コーディネーター、地域
支え合い推進員との連携によって、地域資源の発見開発を行うことができている
と思いますが、今後は企業との継続的な関わりが課題と捉えています。
同様にえんがわフェスタ、えんがわファンドを通じ、新たな団体との関わりは
増加しているものの、継続的な支援は半分程度にとどまっています。要因として、
団体の活動状況の変化や活動への訪問・時間的な不足があると感じています。

(4) えんがわファンドによる寄付文化の醸成

市民が市民活動団体を介して、えんがわファンドの価値をより広く伝えることを
方針の1つに掲げています。

ホームページ、チラシ、広報紙、FM等の各種媒体を活用して広報の機会を設
けていますが、結果としては活動資金が減少傾向にあり、結果が出ていないと
いう評価です。

また、えんがわファンドを支える共感者を個人や企業など幅広く増やしていく
という方針を掲げていますが、寄付者の実績を見ると、新規の寄付者がほぼい
ない状況にあり、こちらは未達成の内容と評価しています。

(5) 居場所やサードプレイス周知や創出

市民が心身ともに健康的に暮らすことができる市民主体の場づくりと推進を
目的に、場所に囚われない多様なサードプレイスの存在、必要性の周知、運営
支援を行うことを目指す柱です。

運営委員会の協力もあり、居場所づくりに関する講演会、えんがわファンド助
成事業、えんがわ文庫、えんがわフェスタ、多様な場所の価値を発信すること
ができたという評価です。

こちらは特に充実した柱と考えています。

(6) 災害時に備えた支え合いの醸成です。

地域内の繋がり強化に加え、地域の要配慮者に対する意識を高めることを意図
して、2023 年度に「要配慮者支援」をテーマに実施しましたが、単発で終了
していて、その後何か活動に継続して繋がっているところが無いことが課題と
捉えています。

また、日頃の様々な活動や地域の防災訓練、防災まち歩きを通して、商工会や
青年会議所など地域の諸機関との関わりを構築する方針を掲げています。

過年度2年間においては、具体的に団体名が挙がっている商工会や青年会議所
との関わりではないものの、近隣5市の社会福祉協議会と防災協定を締結、東
京ボランティアセンターを招いての研修会を行うことができました。

2023、2024 年度はいざという時の市民支援を推進する講座開催に至りませ
んでしたが、調布市、調布市スポーツ協会との災害ボランティアセンター開設に
向けた協議連携会議等へ出席をしています。

- (委員) その後の活動に繋がっていない点が及第点という説明がありましたが、繋がってはいないが合格点という意味ですか？
- (事務局) 口頭説明に間違いがあるため、訂正します。正しくはつながらないことは課題点です。
- (委員) ある程度達成できた内容、そうでない内容や反省点もあります。
ただ、柱3の報告にあった、③えんがわファンドによる寄付文化の醸成にあったサポーター会費を含め、えんがわファンド助成金の原資が減少している点に関しては、活動するには原資が必要になる。寄付文化の醸成というからには、働きかけを行っていくべきである。総括を受け、改めて結果を見ると、醸成を行う糸口も含めて、もう少し方法を検討する余地があるように思います。
このため、この場で運営委員の皆さんのコメントやご意見も貰いながら、次回以降、寄付文化の醸成に焦点を当てて協議・議論に繋げていければと感じました。
- (事務局) 数字にしやすい柱ではありますが、過年度2年度の減少を鑑みると、この事業報告を振り返るきっかけにもなりました。
- (委員長) ご意見ありがとうございます。
情報量が多いので、概要を要約した実際の活動が2ページ目、3ページ目にありますので、この後もし気になるようなことがあれば、追加して聞いていただきたいと思います。
今年度から運営委員会に参加した委員も含め、そこは活動しながら徐々に把握していただけたらと考えています。
- (委員) 資料の見方について確認ですが、これは2023年、2024年の2年分間の評価でよろしいですか。
- (委員長) 両方の表の一番上に2023年から2027年とありますが、これは中長期計画表で、2023年から2027年の5本の柱の計画です。今回この2年間、2023年から始まって2年経った中で、これまでやって来た活動がこの事業計画に沿ってるか、中間評価となります。
- (委員) 5年間で最終的にどのような目標のイメージを確認したいです。
具体的な数字にした場合って何をどの程度というのはあるのでしょうか。
- (事務局) これまでお伝えした点は、方針という形であり、行動指針、概念的な方向性であるため、ご質問にあった数値を達成していく評価はしていません。

- (委 員) 総括で話された項目に関する評価・判断は、市民活動支援センターによる主観的な評価であると受け取ってよろしいですか。
- (事務局) ご意見のとおりです。
- (委 員) 例えば、報告を聞き、センターの主観的評価に対し、運営委員会の場でセンターの評価が正しいか否かという判断を行うという認識でよろしいですか。
- (事務局) ご意見のとおりです。センターとして事業の評価、課題、対応策、今後の取組に対し、ご指摘や改善提案などをいただく場にしたいと考えています。
- (委 員) センターとしての評価をしているが、第三者的な評価も必要であり、運営委員会があると認識しました。
- (委 員) 私は、運営委員会も含め、市民活動支援センターと理解している。事務局が作った総括表を内部機関である運営委員会が客観的な評価を行い、この基礎をもとに、今後の市民活動支援センターの運営を実施していくものと理解しています。このため、運営委員会は、外部ではなくて内部という認識でいます。
- (委 員) 運営委員会も含めた市民活動支援センターの評価が、最終的に評価されるのは、センターが委託事業であるという性質を考えると最終的に行政がこの内容を鑑みて評価するという、二段階の評価が実施されるという理解でよろしいでしょうか。加えて、今後の委託費用などとの関連はどう考えるのでしょうか。
- (事務局) 毎年度、事業報告については社会福祉協議会の理事会・評議員会といった外部の方も参加する意思決定機関において承認の有無を評価しています。加えて、委託事業であるため調布市へ結果報告を行っています。調布市の事務事業評価を定期的に行っており、この対象にもなっています。
- (委 員) 調布市、或いは調布市社会福祉協議会へ報告を行うのですか。
- (事務局) 社会福祉協議会と調布市へ報告します。社会福祉協議会として市民活動支援センターの運営を調布市から受託していますが、市民活動支援センターの円滑な運営及び利用者の視点に立った効果的な事業推進を図るため、本運営委員会を設置しています。このため、運営委員会での承認を受けた内容が法人の理事会・評議員会にて審議のうえ決議されます。最終的に法人の理事会・評議員会で決議された内容が調布市に提出されます。そこで、当センターの運営が、調布市の目指す方向性で運営されているのか判断される機会が持たれることとなります。

- (委員) 過年度 2 年間分の中間報告として、確認をしたところですが、2023-2027 の方針を計画するにあたっての経緯を教えてください。
- (事務局) 前方針は 2018-2022 の 5 か年の方針が該当します。項目として抜本的な変化はない内容であると認識しています。理由として、調布市における中間支援組織である当センターの中長期運営方針は、普遍的なテーマであるように捉えているからです。10 年、20 年という期間で、社会の変化を受け多少の変化はあるものの開設当初から変わらない恒久的テーマもあります。
- 一方で時代に合わせて新たな課題が生まれてくることもありますので、そうした課題に対して、当センターがどのように向き合っていくか、センターの在り方についても、都度この運営委員会の中で検討、ご意見いただきながら、事業に反映させていくことを繰り返す必要があると思います。
- 市民社会がどう育ってきたかについていうことを評価する際、指標をどこで取ったらよいかは難しい部分ではありますが、市民意識調査のような調査を行うことも 1 つの方法と考えます。
- (委員) 数値目標がない状態で運営されている点が気になります。
- 例えば、災害ボランティアの参加者数が 43 人という数字がありますが、人口 23 万人に対して 43 人というのは、少ないように感じました。
- センターの年間利用者数 3 万人は大きな数字ですが、他のイベントへの参加者数や影響力は不明です。
- サマーボランティア事業の盛り上がりは良い傾向ですが、事業の成功・失敗を示す指標が不明瞭で、現状が改善傾向なのか悪化傾向なのか判断できないように感じました。
- (事務局) 数値的な評価と質的な評価の両方が必要で、数字に表れない質的な評価は難しいながらも重要な要素です。参加者数の増加を求める事業もあれば、そうでない事業もあり、市民活動支援センターの事業効果を判断するのは難しいです。量的な目的を持つ事業に関しては、もう少し理解が図れる資料が作れると良いと思いました。
- (委員長) 分かりやすい資料で評価する必要のある事業もあると思います。令和 5 年度の数字はありますが、令和 4 年度のデータがない点も気になりました。定量的・定性的評価は全ての項目に必要です。数値目標は次の目標設定のためではなく、全体的な流れの情報として捉え、理解するために利用することが良いと思います。
- ビジネスのように数値に囚われる必要はありませんが、参考値として数値を残しておくことはすぐにでも始めてもよろしいかと思いました。
- (委員) 中長期運営方針は市民活動支援センターが委託金を受けるための組織の内省的な意味合いが強いですか。

- (事務局) 我々の目標は自立した市民社会の創造であり、市民と中間支援組織を運営し、市民活動を盛り上げ、地域社会を良くしていくことです。中長期運営方針は、調布市へのアピールのためではなく、調布市、委託事業者、市民が共に市民社会を良くしていくための合意形成と方向性の確認と位置付けています。
- (委員) 言語化し共有するために存在する方針と理解しました。内容によっては、客観性を示すためにも、数値目標のある内容がある柱があっても良いかもしれません。
- (委員) 以前、第10期において運営委員長が中心となって分析したアウトカムや目標、ロジックモデルに基づいた内容が存在したかと思います。今回の方針には直接的には組み込まず、参考資料として活用されていますか。
- (委員) 過去は参加しておらず、資料に目を通したことがないため、数字や数値化した目標が必要という考えも分からなくもありません。これまで話して来たように普遍的なテーマと時代の変化に対し、市民である私たちが何をしたいかという、それぞれのバックグラウンドや感覚の中で協議を行っていくことも必要だと思います。
他の委員のご意見にあった、1個1個に対して目標や数字があってもよいですが、でも結局やっても数字のお遊びになるだけのような気がしています。
- (委員) 事務局から話があったように市民活動支援センターと運営委員会の性格からすると、ビジネスモデル的なアプローチだけじゃなくいいと考えます。
- (委員) 両方あってもよいのではないかと思います。
- (委員) 両方あっても良いという意見もありますが、無理はしない方がよいのではないかと思います。数字を作るための数字は、あまり意味がなく、労力が掛かって議論が停滞するのではないかと思います。それよりは、多様な経歴・経験を持つ運営委員が生活の中で感じる「今何が足りていないか」という実感に伴う目標を考えていく、本日の運営委員会であれば、柱3の寄付文化の醸成を焦点化して協議・検討を行うのは良いと感じています。
- (委員) 総括を聞く中で、評価は主観で決まっており、最終的には働く人たち、特に事務局がこれを決める事によって、自分たちの活動にフィードバックされる様な使い方が主だった内容であり、加えて外部にも提出する上で、客観的評価も受けたいという内容と理解した。
数字として出せる内容、もっと言えば数字で評価をして欲しい項目に関しては数字で、そうでない内容は質で評価をするという形にし、押し付けにならないよう配慮しつつ、現場目線で考える課題意識を伝えていただける方が理

解しやすいと考えます。

本日の運営委員会としては、総括に対する意見、柱3に対する意見が欲しいと理解していますがよろしいでしょうか。

議論を限定しない意見を欲しいということであれば、今の報告で良いかなと思います。

(事務局) 事務局が持つ課題意識は、ご意見のとおり柱3に課題を感じています。

他の1, 2, 4, 5については、総括の中で紹介したように、成果と課題の両側面を評価できたが、柱3のみ、主観的評価においても成果が出せませんでした。

(委員長) 会員や金額が減少しているのは、数値でもわかっているのでしょうか。

(事務局) ご意見のとおりです。加えて、サポーター会員の新規会員は増えていません。

(委員長) 運営委員会内で取り上げたいトピックスとしては、寄付文化の醸成、柱3に注目して話ができると思います。単にサポーター会員を増やそうという話になってしまわないように、そもそも寄付文化の醸成とは何か、何をもって寄付文化の醸成かという点について、意識を共有し意見交換をしたいと考えます。市民活動支援センターの事業としては、市民活動助成事業えんがわファンドが該当します。

市民が市民活動団体を支える仕組みで、集めた寄付を原資に調布市内で多様な市民活動を行う団体への活動資金の助成を行うことで社会資源が増え、結果として市民の生活が豊かになることで循環を行う仕組みです。

その原資となる資金は、サポーター会費、ちょうふチャリティーウォークの参加費収入、各種益金（使用済み切手・書き損じ葉書、義歯）によって構成されています。サポーター会員については、個人や団体、企業と幅広く募っていくことも必要かと思っています。

寄付文化の醸成は、1人でも多くの市民がチャリティーの意識をもって行動をおこす状況になるのが、理想だと考えています。災害募金箱に限らず、市民が主体的にまちをよくする活動に投資するような社会になることを寄付文化の醸成と捉えています。例えば、自分が高齢者になった時、住み慣れた大好きなまちで、何か使ってもらえないか、遺贈による寄付なども含めてえんがわファンドに対してあればいいなと思っています。

このためには、まず活動を知ってもらわないといけません。えんがわファンドとは何か、関わっている市民活動団体、市民が作り上げた団体が市民に貢献しているのか、そういったものが伝わる広報が十分でないと感じています。広報だけでなく、イベントを通して広げていく必要がありますが、年に1度のイベントでは認知度が広がりません。イベントを開催しつつ、このほかにも何かを行い認知度を上げる必要があると思います。市民活動支援センター運営委員会として、2月の活動として何をするか、皆さんのアイデアを頂き

たいです。

- (委員) 関わりのある機関・活動の中にカトリックの施設があります。寄付文化は子どもの頃から醸成されます。寄付先としては、目の見えない方など人道的支援が多いです。このような活動への寄付は広報されていないので、団体があること自体を知らない人がいると思います。えんがわファンドの認知度を上げていく必要があります。カトリック教会など、様々な場所に寄付していると思うので、そういったところへも PR をしていけると良いと思います。
- (委員) 寄付文化の醸成は、えんがわファンドへの寄付を増やすだけでなく、他の団体への寄付が広がるように考える必要があります。
市民活動支援センターとしては、えんがわファンドを通して寄付文化を広げていく視点をもって、まずえんがわファンドを知ってもらうアプローチを行い、ちょうふチャリティーウォーク以外にもチャリティーの機会を増やすことで、寄付したい人が参加できる機会を増やしていく必要があると思います。センターの各事業において、寄付文化醸成の視点を常に意識しながら取り組むことも必要です。例えば寄付にまつわるテーマで講座を企画する等寄付文化醸成につながるアクションを起こしていくと良いと思います。
- (委員) 寄付を考えると、クラウドファンディングが一般的になり、明確な使途で寄付したい人が増えていると思います。そういう人がえんがわファンドに寄付してもらえよう取り組むことも必要です。他の委員の意見にもあったように、市民活動支援センターにおいて団体が寄付を募るための講座を開いても良いと思います。
えんがわファンドを通して寄付することに限定せず、それぞれが資金調達するための考え方や方法を学ぶことも寄付文化の醸成につながるかもしれません。
- (委員) 感染症前に団体へ訪問して説明しようという動きがありましたが、感染症の影響により休止していたため、今後再開しても良いと考えます。
寄付文化の醸成は、単にえんがわファンドだけが良くなるのではなく、社会全体で寄付文化を育てていく役割です。ファンドレイジングに関する研修をえんがわファンドを受けている団体や市民活動団体を対象にシリーズで実施するのも良いと思います。
遺贈の話も重要です。亡くなった後に寄付した人の話を聞くと良いでしょう。パネルディスカッションなどで、様々な人を招いてシリーズ化しても良いと思います。
えんがわファンドに申請した団体へも声を掛け、貢献すれば資金集めができることを呼びかければ、活動を広げられると思います。

(委員) 私は「えんがわ」を初めて聞いた時、「何ですか」と思いました。川の名前かと思いました。えんがわフェンド、えんがわフェスタ、えんがわだより、えんがわ文庫など名前は、何かすぐ出てくる意味のある名前にした方がよいのではないかと考えていました。

(委員長) 昔、日本の家屋には軒があって庭があり、庭とお家の間に「縁側」と呼ばれる家にくっついたベンチみたいなのがありました。そこでは、近所のひとがいつでも家に座って雑談をしたり、誰もが交流できるスペースがありました。

(委員長) 世代的な意見も伺いたいです。若い方は「縁側」と聞き、身近に感じられますか。

(委員) 縁側のイメージは湧きますが、調布市においてはあまり多くない印象持っています。世代が上の方のイメージです。何かほっと一息というようなそんな印象をもっています。センターの事業に「えんがわ」という言葉が入るのはなぜだろうと疑問には感じていました。

(事務局) 当センターが開所した時に市民の皆さんと開設に向けた準備会議みたいなものを作って、「このセンターが市民の皆さんに親しまれる場所で、拠点に色んな交流が生まれて、色んなものが化学反応を起こして、市民社会を育んでいくような場所になるといいね」というご意見から、「まちの縁側になりたい」というキャッチコピーが最初に付きました。それから事業に「えんがわ」をつける議論がオープン当初にあり、「えんがわ」をつけた経緯があります。

(委員) 少し古い言葉な気はして、あまり自分には関係が強いというイメージを持ちにくいのかもしれません。

(委員長) では、こうした意見も取り入れつつ、次回、具体的な内容を協議・検討していきたいと思います。

4 【その他】 11:50~12:00 (10M)

情報共有

市民活動支援センター職員研修実施

(委員長) 最後にその他お知らせ事項などはありますか。

(委員) 相談サービスの紹介

→調布市の子ども・若者を対象にNPO法人「あなたのいばしょ」と連携し、チャット相談サービスを7月1日から行っています。利用者の中には、昼夜逆転している方もいるため、24時間対応の相談サービスとなっています。悩んでいる子どもたちに、この取組が繋がれば良いなと思っています。お近くに必要としている方がいたらご紹介頂ければと思います。よろしく申し上げます。以上です。

(事務局) (1)8月9日に文化生涯学習課が行うワールドカフェを企画の紹介
(2)市民活動支援センター職員研修の紹介

→9月4日(木)9時30分～11時に日本ボランティアコーディネーター協会の方を講師に招き、中間支援組織の基本やコーディネーター、スタッフに求められるスキルなどをテーマにお話頂く予定です。

我々スタッフは学びの機会としますが、運営委員の中にご参加を希望される方がいらっしゃいましたら教えてください。

(委員長) では、次回9月19日金曜日、場所は同じ場所で19時より運営委員会を開催しますので、お時間合わせてご参加ください。本日もありがとうございました。

5 今後の市民活動支援センター運営委員会の開催日時について

- | | | | |
|-----------|---------|------------------|-------|
| 9月19日(金) | 19時～21時 | 【第4回運営委員会】 | |
| 10月19日(日) | | 【第12回調布まち活フェスタ】 | ※任意参加 |
| 10月26日(日) | | 【ちょうふチャリティーウォーク】 | ※任意参加 |